

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 30 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 30 年 7 月 13 日 (金)		
開催場所	中間処理場 事務所棟研修室 1		
出席者	委員	<出席者：13名> 岡山会長・溝入副会長・大江委員・石田委員・石原委員・星野委員・土屋委員・山田委員・黒須委員・齋藤委員・多田委員・林委員・岸野委員  <欠席者：2名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・高田・信岡・高花	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1
会議次第	1 開 会 委嘱状の伝達 2 報 告 (1)燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について(平成 29 年度～平成 30 年度) (2)平成 30 年度可燃ごみ処理の支援状況について 3 その他 (1)(仮称)3市ごみ減量推進市民会議への委員の選任及び派遣について (2)小金井市災害廃棄物処理計画の策定について		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

(審議過程) 主な発言等

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>これより平成30年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。今回、委員改選により新たな任期の初回となるため、会長が選出されるまでの間、ごみ対策課長の小野が進行役を務めさせて頂く。</p> <p>本審議会の開催にあたっては、会長選出前のため市長名にて通知したが了承いただきたい。また、堀越委員から欠席の連絡が入っているが、商工会でも会議があるようなので、(商工会推薦の)波多野委員も出席は難しいと思われる。</p> <p>それでは、本日、机上配布している資料について、確認をお願いしたい。</p> <p>(配布資料確認)</p> <p>では、委嘱に入る前に、市長よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>西岡市長</p>	<p>本日は、平成30年第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>また、本日参集いただいた皆様方には、小金井市が多年に亘り大変お世話になっていること、様々な活動を通じて、市制に協力、尽力をいただいていることを改めて感謝申し上げます。</p> <p>小金井市の可燃ごみは、平成19年3月末をもって二枚橋焼却場の全焼却炉の運転を停止して以降、10年近くに亘り、多摩地域の多くの団体の皆様方からの支援により全量を処理していただいている。</p> <p>市制の最重要課題である、新可燃ごみ処理施設の整備については、平成27年7月に浅川清流環境組合が設立され、昨年11月からは建設工事に着工し、平成32年度からの日野市、国分寺市、小金井市の3市による共同処理施設稼働に向け準備が進められている。小金井市としても、今後とも日野市民の皆様への不安を少しでも解消するために、与えられた役割を誠実に果たしていく。</p> <p>ごみの発生量については、この間の市民の皆様のご尽力、</p>

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	<p>あるいはリサイクル推進協力店など事業者の皆様の尽力により、年々減少してきているところである。目標としていくごみの減量については、市報こがねいでも毎月目標に対する状況を、市民の方々にお知らせしている。こういった努力もあり、人口10万人以上50万人未満の全国の市町村の中で、市民1人が1日に排出するごみ量は、平成24年度から5年間連続で、一番少ない市町村となっている。</p> <p>また、リサイクル率についても、全国でも上位に位置をしている。市民の皆様方には、ごみの減量及び資源化施策に理解と協力を賜り、日々の取り組みに敬意を表するとともに、この場を借りて改めて感謝申し上げる。</p> <p>今回、小金井市廃棄物減量等推進審議会においては、任期も改まり、平成30年7月より新たに選任され、就任いただいた委員の皆様、また、継続して引き続きご就任いただいた委員の皆様に、私から委嘱状を伝達させていただき運びとなった。就任に理解いただいた皆様に感謝申し上げます。</p> <p>今期就任いただいた当審議会委員の皆様には、年度ごとの「一般廃棄物処理計画」の策定のみならず、災害発生時に備えた「災害廃棄物処理計画」の策定、平成26年度に改定した10年間の本市における廃棄物行政の指針となる「一般廃棄物処理基本計画」の来年度の見直しについて、専門的な知識あるいは市民感覚を活かして、積極的にご意見等を賜るようお願いする。</p> <p>また、今年度、可燃ごみの共同処理を行う日野市・国分寺市・小金井市による新しい組織である「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議」を設置する。この市民会議には、当審議会から委員を派遣することになっており、併せて更なる協力、高配を賜るようお願いする。</p> <p>今後も本市のごみ行政に建設的な意見を賜ることをお願いする。</p> <p>続いて、委嘱状の伝達を行う。</p> <p>(市長 委嘱状の伝達)</p>
----------	---

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	<p>市長は公務のため、ここで退席させていただく。</p> <p>(市長退席)</p> <p>委員改選後、初めての審議となるので、委員の皆様にも岡山前会長から反時計回りで自己紹介をお願いしたい。</p> <p>(委員自己紹介・事務局紹介)</p> <p>それでは、審議会会長を選出したい。先ず事務局から規定を説明させて頂く。</p> <p>(小金井市廃棄物減量等推進審議会規則 第3条第1項と第2項を説明)</p> <p>それでは、只今から小金井市廃棄物減量等推進審議会会長の互選を行う。挙手にて推薦をお願いしたい。</p>
岸野委員	<p>昨年同様、岡山先生をお願いしたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>他にいないようであれば、岡山委員を会長に選出することで良いか。</p> <p>(承認)</p> <p>それでは、只今選出された岡山会長に挨拶を頂きたい。</p> <p>(新会長から挨拶)</p>
小野ごみ対策課長	<p>これより岡山会長に進行をお願いする。</p>
岡山会長	<p>それでは、引き続き副会長の互選を行う。互選の方法については、同じく挙手にて指名推薦で行いたい。</p>
林委員	<p>昨年度に引き続き溝入委員をお願いしたい。</p>

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>他にいないようであれば、溝入委員を副会長に選出することで良いか。</p> <p>(承認)</p> <p>それでは、溝入副会長から挨拶を頂きたい。</p> <p>(新副会長から挨拶)</p> <p>それでは、審議会の進行について事務局より説明をお願いしたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>(小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例第7条・規則・情報公開条例第5条第1項・小金井市市民参加条例を説明)</p> <p>欠席する場合は、開催日の2日前までに事務局に連絡して頂きたい。また、会議録については、発言内容ごとの要点記録とし、発言者名は公開する。発言内容の訂正については、会長と調整し、作成した会議録は、次回の審議会開催の1週間前までを目安に各委員に送付し、次回の審議会の冒頭で最終確認後、ホームページ等で公開する。会議録の作成上、発言は録音させて頂くので、発言の前に挙手して会長から指名された後に名前を添えた上で発言して頂くよう、協力をお願いする。</p>
岡山会長	<p>事務局からの説明どおり、会議録については、今年度も発言者が分る形での公開の取り扱いとする。議事を録音して、それを起こして記録するという形になるので、発言の前に自分の氏名を言って頂きたい。</p> <p>それでは、事務局より提出資料の報告と説明をお願いする。</p>
小野ごみ対策課長	<p>(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」説明)</p>
藤田ごみ処理施設担当	<p>(「平成30年度 可燃ごみ処理の支援状況について」説</p>

(審議過程) 主な発言等

課長	明)
岡山会長	今の資料について質疑はあるか。
林委員	昨年度の支援量の全体量と目標、実績について教えていただきたい。
藤田ごみ処理施設担当課長	実績は、家庭ごみが11,600.17トン、事業系ごみが363.794トン(うち23.914トンはオリックスへ)、合計11,963.964トンである。
林委員	目標は何トンか。
藤田ごみ処理施設担当課長	契約量は13,600トンである。今年度は、皆様の協力により契約量を500トン減らして13,100トンである。
岡山会長	その他の事項について事務局に説明を求める。
小野ごみ対策課長	<p>まず、「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議への委員の選出及び派遣について」である。市長の挨拶にもあったが、「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議」が立ち上がった。そこで、この審議会でも委員の選出をしていただく。</p> <p>可燃ごみの共同処理については、日野市・国分寺市とともに設立した浅川清流環境組合にて、日野市内で平成32年度の新可燃ごみ処理施設本格稼働を目指して事業を進めているところである。新施設稼働後は、日野市・国分寺市・小金井市の3市で、可燃ごみの共同処理を日野市クリーンセンター内で行うことになるが、共同処理を巡る日野市の置かれている状況、3市で締結した覚書内容、新可燃ごみ処理施設稼働に伴う情報等を、市民の皆様に情報発信し、理解の浸透を図り、また、可燃ごみ量の更なる削減を推進するための環境に配慮した取り組みを協議し、検討していくために「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議」を立ち上げるようになった。</p> <p>委員の構成としては、市民委員各市4名ずつ計12名、</p>

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>コーディネーター1名、行政から各市ごみ減量担当課長と浅川清流環境組合課長となっている。</p> <p>本市においては、本審議会の委員から「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議」の市民委員を選任し、派遣したいと考えている。事務局としては、4名のうち2名について、一般廃棄物の適正な処理及び減量と、町の美化のため市の施策に協力していただいているごみゼロ化推進会議から推薦をいただいている林委員と、市内事業者の代表となる商工会から推薦をいただいている波多野委員に、事務局推薦として就任していただきたい。両名とも、昨年3市市民会議の準備会に参加していただいた。他の2名については、市民公募の委員の方の中から、お引き受けいただきたい。</p> <p>事務局の選出依頼について、了承してよいか。</p> <p>(承認)</p> <p>それでは、市民公募委員の方の中で、立候補者はいるか。</p> <p>(石田委員・山田委員が挙手)</p> <p>では、林委員・波多野委員・石田委員・山田委員を「(仮称)3市ごみ減量推進市民会議」の市民委員として派遣することを了承する。各委員から一言願いたい。</p> <p>(林委員・石田委員・山田委員より挨拶)</p>
小野ごみ対策課長	<p>その他の(2)「小金井市災害廃棄物処理計画策定について」説明する。</p> <p>東日本大震災を教訓に、国において平成26年3月に「災害廃棄物対策指針」の改定が行われた。これに基づき、今後発生が予想される大規模地震等による被害を抑止・軽減するための災害予防、さらに発生した災害廃棄物等の処理を適正かつ迅速に行うための応急対策、復旧・復興対策を円滑に実施するための体制構築を目的とし、小金井市でもそれらを網羅する計画を策定することになった。</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>今年度、災害廃棄物処理計画策定支援委託ということで予算計上し、先般、株式会社日本環境工学設計事務所がコンサルティング業者として決定した。策定期間は平成31年3月31日までとなる。</p> <p>この災害廃棄物処理計画の内容について、コンサルティング業者も加わり、当審議会で協議していただく。この災害廃棄物処理計画についての審議は、計4～5回の協議回数を設ける予定であるが、希望があれば別途小委員会を設けて協議していただくことも可能である。委員の皆様には大変な負担を掛けるが、よろしく願いたい。</p> <p>次回の審議会開催日程について、例年は10月頃市長から翌年度の小金井市一般廃棄物処理計画について諮問し、2月、3月に皆様に答申をいただいているが、その前に、前任の審議会の委員の皆様が見学を希望していた、小金井市の生ごみ乾燥物を堆肥化処理している群馬県の堆肥化工場「株式会社エンザ」への見学計画を立てている。場所は群馬県の様名山の裏であることから、1日かけての視察となる。8月末から9月上旬を予定しており、日程が決まり次第知らせるので、是非多くの方に参加していただきたい。</p> <p>また、今年度は審議会委員の改選があったため、勉強会と、災害廃棄物処理計画の策定支援を行う株式会社日本環境工学設計事務所から、基本的事項や今後の進行などについての説明会の実施を予定している。まず新規にご就任いただいた委員の方を中心に、1時間程度小金井市のごみの状況を説明させていただく。勉強会終了後は、改めて審議会として、業者を交えた災害廃棄物処理計画の説明会を実施しようと考えている。日程としては8月末を計画している。</p> <p>日程などについては、改めてお知らせする。</p> <p>見学会並びに勉強会も含め、次回の審議会開催日程について改めて通知する。</p> <p>エンザ視察の件だが、生ごみ乾燥物の処理というのは、お金がかかる。視察するという事は、継続するということか。個人的には、規模を縮小したり、地域の大型生ごみ処理機に移行していくつもりなのだろうと考えていた。し</p>
--	---

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	<p>かし、ここに視察に行くということは、当面各家庭から集めた生ごみをエンザで処理するというプロセスを継続するという考えなのか。</p> <p>生ごみ乾燥物について、小金井市では堆肥化しているが、二つ手間を掛けている。生ごみを乾燥させることと、乾燥物を集めて堆肥化工場に持って行き、堆肥にしたものを買戻していることである。非常に費用が掛かるが、可燃物減量に対する効果としては高い評価がある。現時点においては、いつ見直しを行うかはまだ検討の段階である。ただ、小金井市が抱えている状況の中で、可燃ごみの中に含まれる生ごみを小金井市ではこういった処理をしているということを1回見たうえで、来年の基本計画の見直しに臨んでいただきたい。生ごみに関しては相当議論していただかなければならないので、まず状況を目で見て、臭いを感じていただきたいと考え、今回企画したものである。実際に市として生ごみの施策については見直しをしていかななくてはならないが、今の段階ではまだ具体的なことは決まっていない。</p>
岡山会長	他に何かあるか。
岸野委員	来週から夏休み生ごみ投入事業をやるが、できれば近くへ赴いて状況を見ていただければ良いと思う。例年10か所を実施していたが、今年は8か所で行う。
大江委員	エンザから買戻したものは、どのように活用しているのか。
小野ごみ対策課長	生ごみ乾燥物については、学校や保育園から出たもの、家庭の生ごみ処理機で作っていただいたもの、学校の生ごみ処理機を使って、夏休みや土曜日に市民の方に投入していただいたものを集めると、50～55トンになる。その全量を群馬県の株式会社エンザへ持っていく。そこでは2種類の堆肥を作っており、1種類は吾妻郡の各家庭から出る下水道汚泥、上野動物園から出る動物のし尿や敷き藁、

(審議過程) 主な発言等

	<p>木の皮が主な原料となっている。それを約3か月間かけて発酵処理をして、完熟の堆肥にしたものを買戻している。もう1種類、下水道汚泥が入っていない堆肥も作ってもらっており、それは発酵処理に約6か月間かかり、こちらも買戻している。買戻した堆肥は、市民に無料で配布させていただくと同時に、市内の農家の方々にも無料で配布させていただいている。下水道汚泥が入っていないに関しては、農家の方々の中で「入っていないほうが良い」という話があったこともあり、少し高価にはなるが、先月から下水道汚泥が入っていないものを農家に届けている。約55トンの乾燥物を持っていき、55トン分の堆肥を買戻している。各家庭では、市民農園やプランターなどで使ってもらっており、土が軟らかくなり、栄養価も高いので、美味しい野菜ができたり、きれいな花が咲いたりするということで、高い評価を得ている。ただ、ホームセンターなどで売っているものは、さほど高くはないが、私たちが作っている堆肥は若干高価なものとなっている。</p>
林委員	<p>2種類併せて55トンなのか。農家では、両方つかっていただいているのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>どちらも使ってもらっている。</p>
大江委員	<p>こちらからは減量して処理したものを持っていったのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>乾燥したものを持ち込んでいるが、原材料として買取ってもらっている。55トン分の乾燥物は、堆肥中の1割にも満たないと思う。</p>
大江委員	<p>いつからか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>平成27年からである。</p>
岡山会長	<p>6月までは全て下水道汚泥発酵肥料だったというわけか。それはどれくらいの量なのか。</p>

(審議過程) 主な発言等

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>そんなに多くは作っていない。なぜ高価になるかというと、汚泥が入っているものは発酵に3か月かかるのに対し、入っていないものは6か月かかる。その期間保管し堆肥になるよう育てているため、その分高価になる。とても臭いが強いので、服装や持ち物については、詳しく記載したものを配るので、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>岡山会長</p>	<p>他に質問は無いようなので、本日はこれで閉会とする。</p>